

第3章 ニーズ調査の分析

第3章では、「子育て支援に関するニーズ調査」から、子育て支援の必要性や課題を抽出します。

第1節 地域における子育て

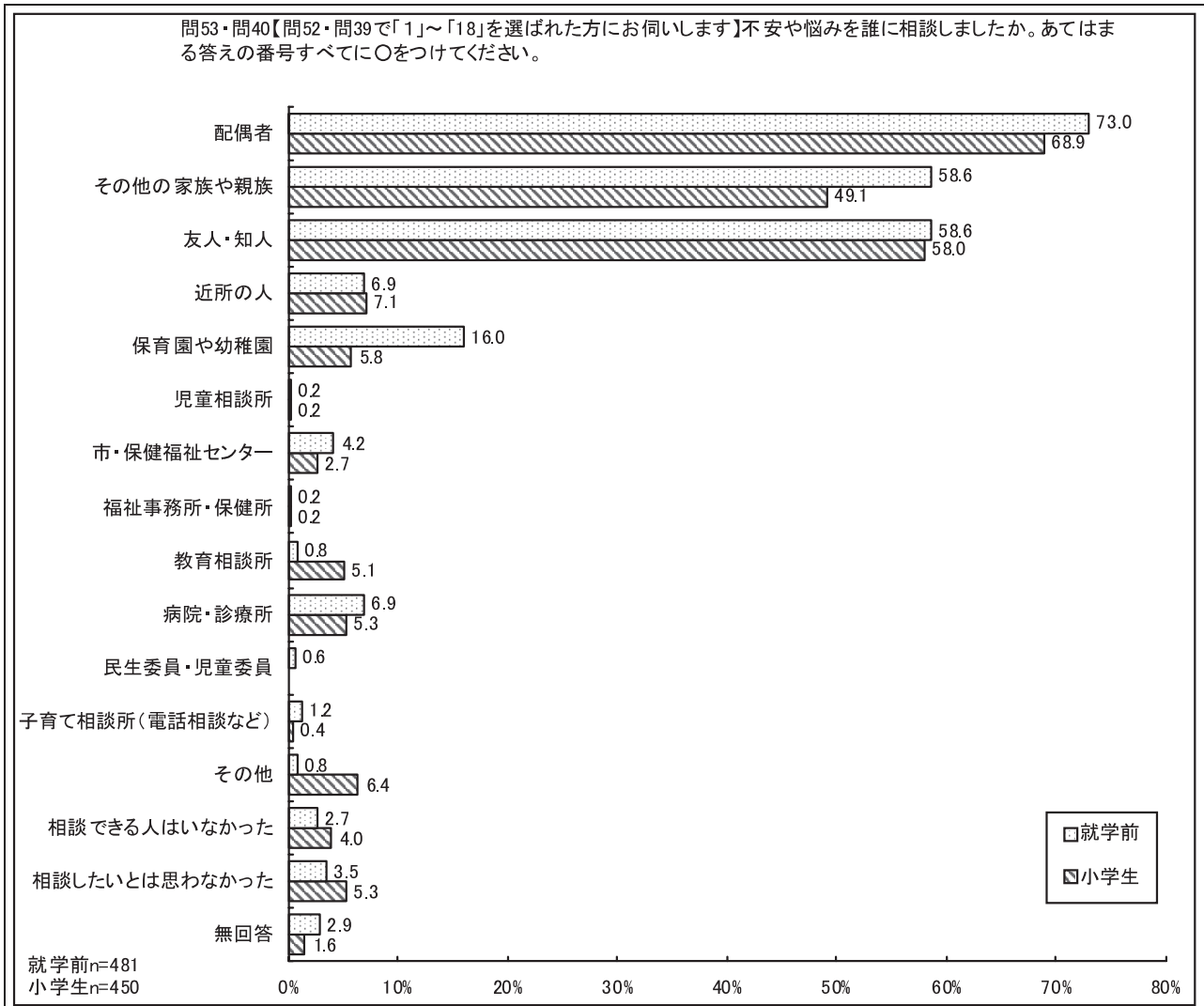
1. 地域における子育て

(1) 不安や悩みの相談相手

子育てに関する不安や悩みの相談相手をみると、「配偶者」、「その他の家族や親族」、「友人・知人」と回答している方が多くみられます。(就学前：問53、小学生：問40)

なかには「相談できる人がいなかった」という回答もあり、また、子育て支援センターでの利用者数が増加傾向にある(表14参照)ことなどから、相談や情報提供に対する支援をさらに充実していく必要性が伺えます。

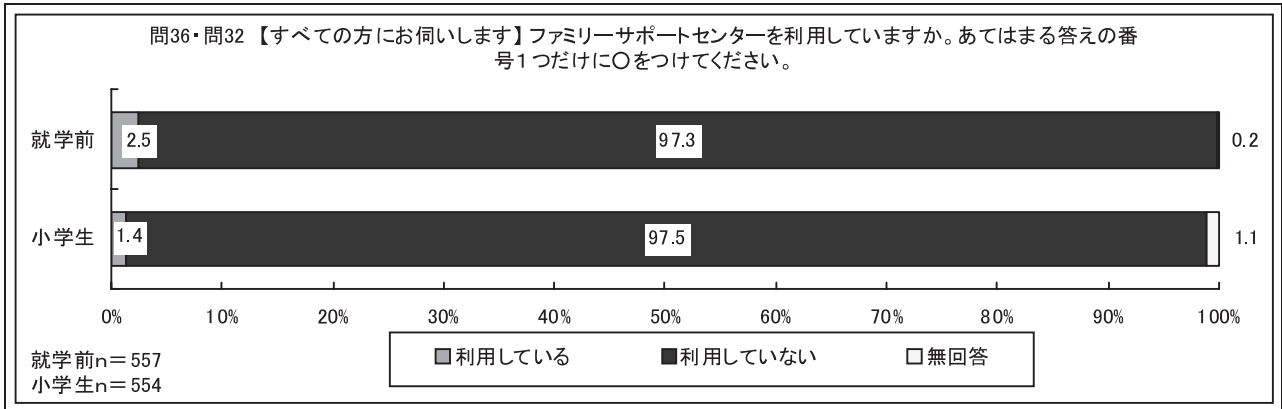
図20 不安や悩みの相談相手



(2) ファミリー・サポート・センター事業

ファミリー・サポート・センターを利用したことがあるという回答は、全体の1.9%でした。利用者数は順調に増加していますが、今後もサービスの充実や事業の周知、情報の提供の必要性が伺えます。(就学前：問36、小学生：問32)

図21 ファミリー・サポート・センターの利用の有無



(3) 放課後児童健全育成事業

放課後児童クラブの利用時間（終了時間）の希望を聞いたところ、19時までの回答が32.6%となっていることから、終了時間の延長の必要性が伺えます。

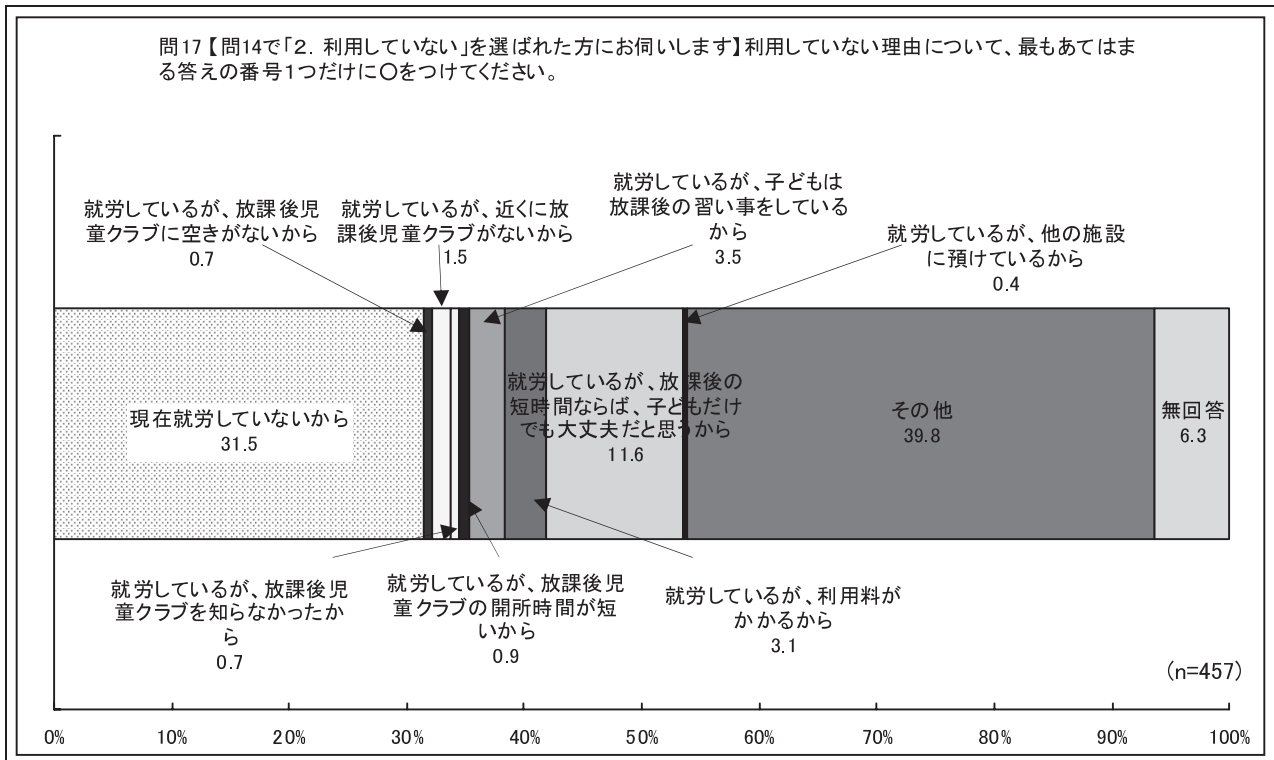
なお、放課後児童クラブを利用していない理由を聞いたところ「就労しているが、利用料がかかるから」が3.1%、「就労しているが、放課後児童クラブの開所時間が短いから」が0.9%、「就労しているが、放課後児童クラブを知らなかったから」が0.7%となっています。

(小学生：問16・17)

表23 希望の利用時間帯（何時まで）

利用時間 (何時まで)	人数 (人)	構成比 (%)	利用時間 (何時まで)	人数 (人)	構成比 (%)	利用時間 (何時まで)	人数 (人)	構成比 (%)
4.0	2	2.2	16.0	3	3.3	18.0	20	21.7
5.0	3	3.3	16.5	1	1.1	19.0	30	32.6
6.0	5	5.4	17.0	15	16.3	20.0	1	1.1
7.0	2	2.2	17.5	2	2.2	無回答	8	8.7
合 計							92	100.0

図22 利用していない理由

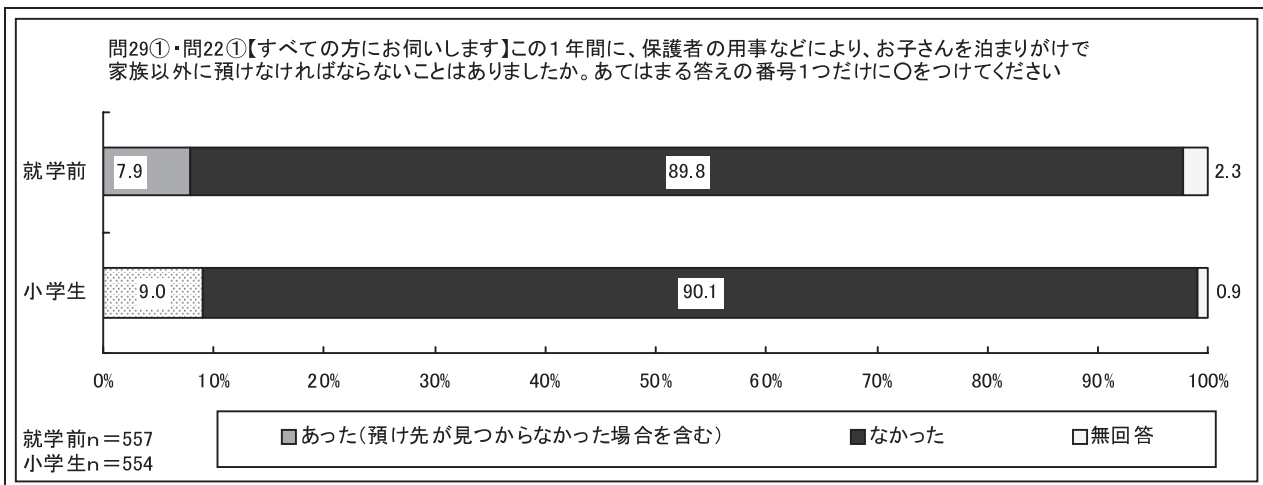


(4) ショートステイ事業

保護者の用事などにより泊まりがけで家族以外に預けなければならなかった経験をみると、「あった」と回答した方が、就学前では7.9%、小学生では9.0%でした。

なかには「預け先が見つからなかった」という回答もあることから、保護者が緊急一時的に児童の養育が困難になった場合にも対応するため、ショートステイ事業を継続する必要があります。(就学前：問29、小学生：問26) (場合を含む)

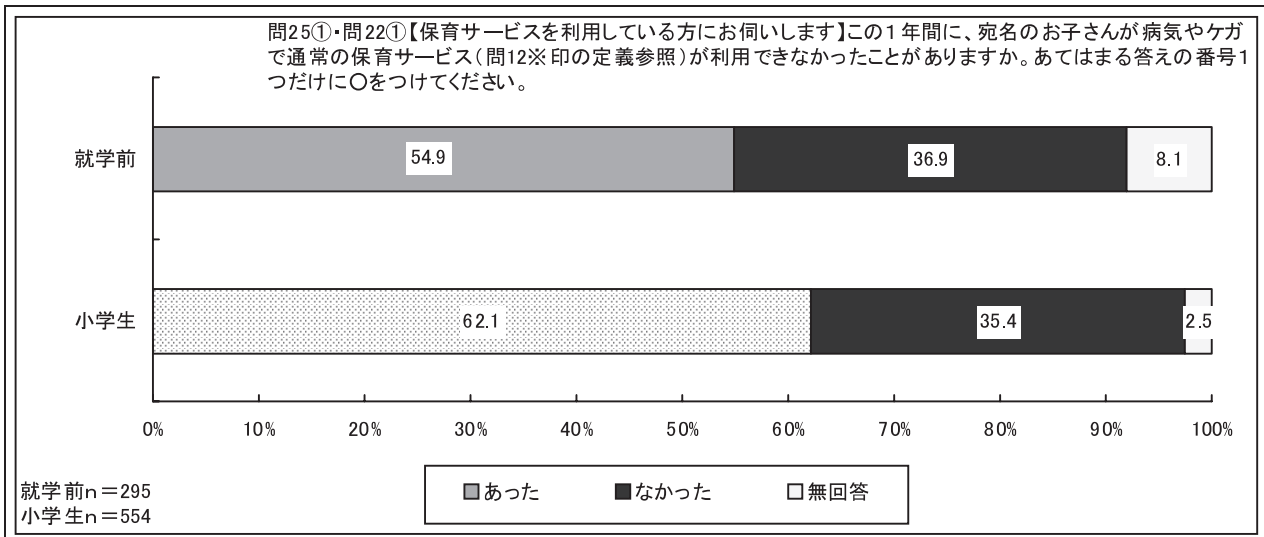
図23 泊まりがけでお子さんを家族以外に預けなければならなかった経験



(5) 病児・病後児保育事業

病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことが「あった」と回答した方は、就学前では 54.9%、小学生で 62.1%と半数以上が経験していることから、病児・病後児保育の拡充についての必要性が伺えます。(就学前：問 25、小学生：問 22)

図 24 病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったことの有無

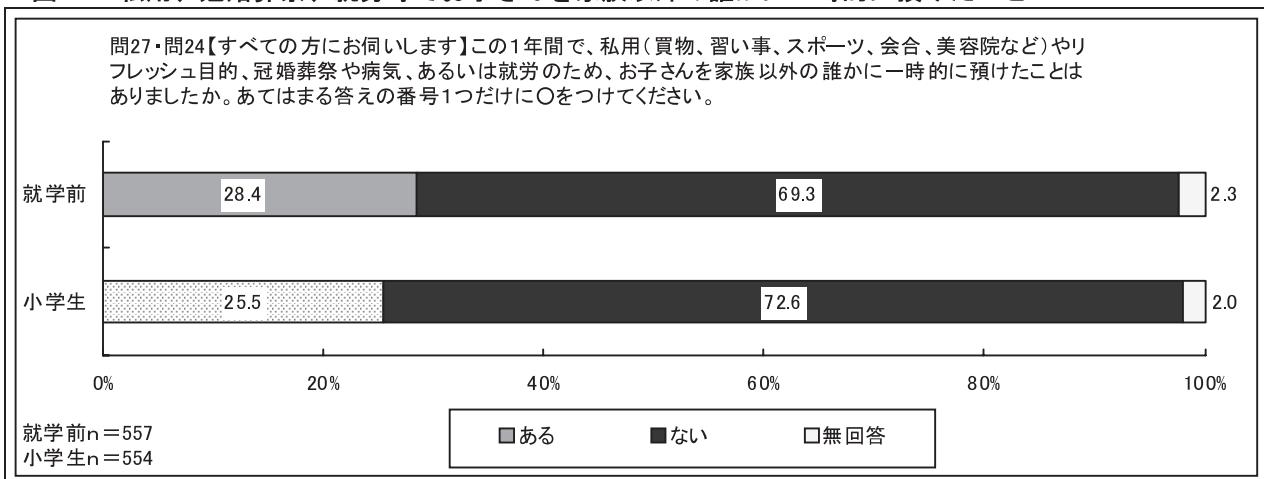


(6) 一時預かり事業

この1年間で、私用、冠婚葬祭、就労等で子どもを家族以外の誰かに一時的に預けたことをみると、「ある」と回答した方は、就学前で 28.4%、小学生では 25.5%となっています。

現在の実施状況と保育需要を踏まえて、定員数の拡大等についての検討が必要です。(就学前：問 27、小学生：問 24)

図 25 私用、冠婚葬祭、就労等でお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたこと

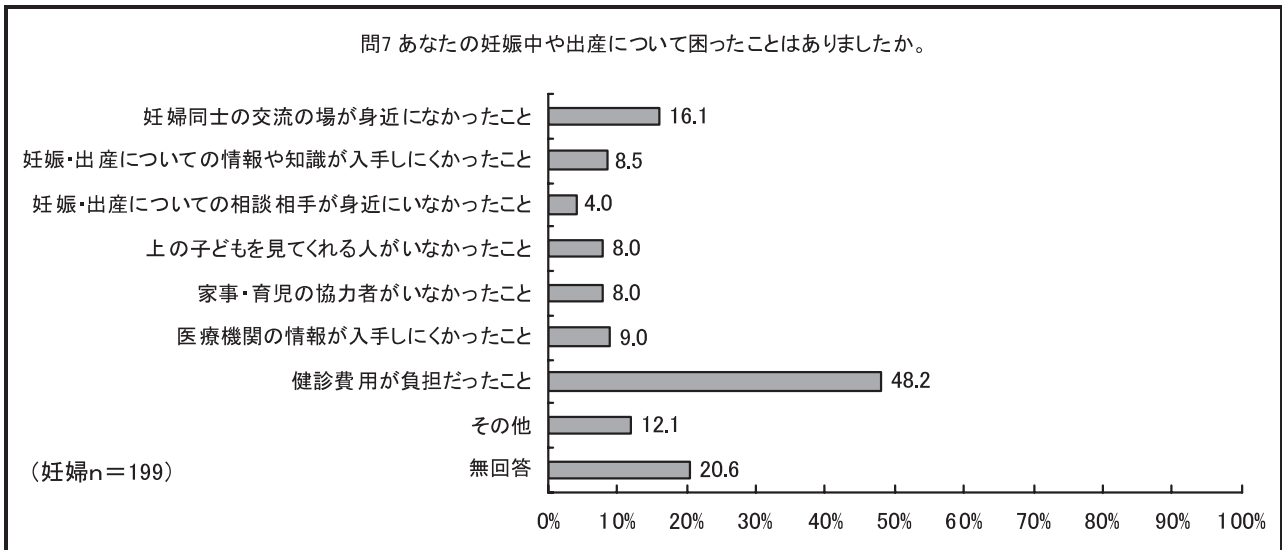


第2節 母性並びに乳児及び幼児等の健康

1. 子どもや両親の心と体の健康の確保

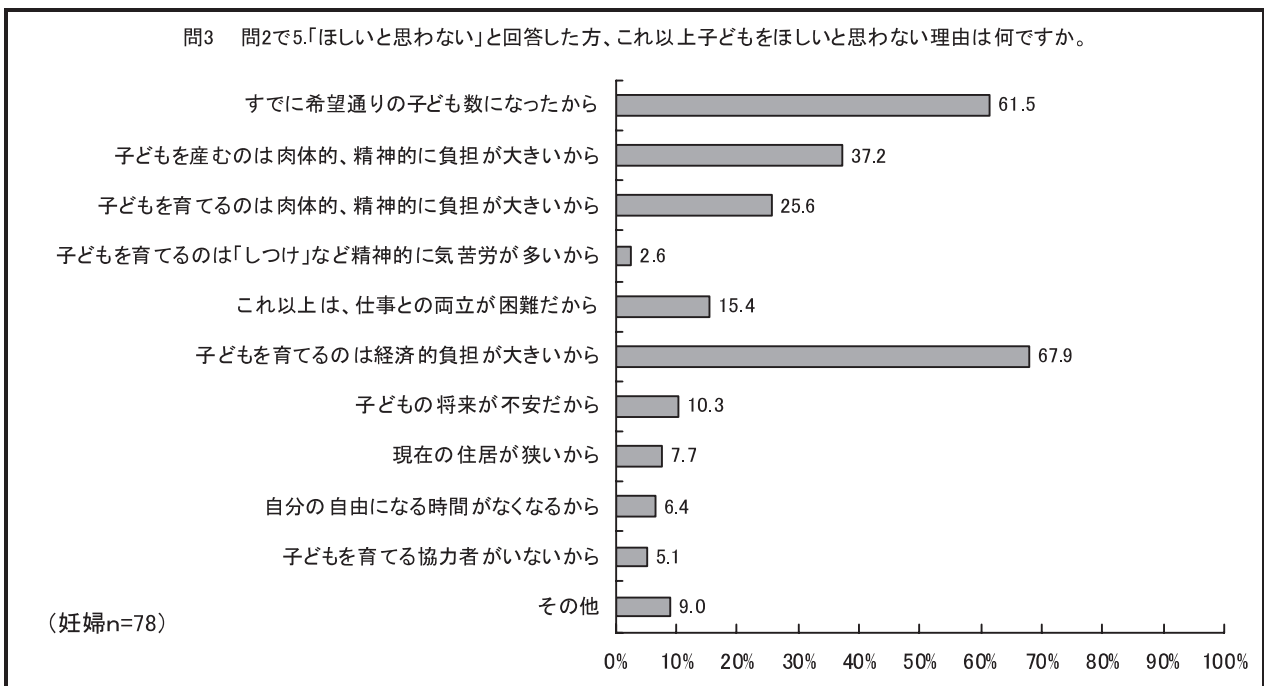
妊娠・出産で困ったことでの回答をみると、「健診費用が負担だったこと」が48.2%で最も多く、次いで「妊婦同士の交流の場が身近になかったこと」が16.1%、「その他」が12.1%となっています。(妊婦：問7)

図26 妊娠・出産で困ったこと



また、これ以上子どもをほしいと思わない理由をみると、「子どもを育てるのは経済的負担が大きいから」が67.9%と一番多くなっており、今後も妊婦健康診査に対する助成など、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っていく必要性が伺えます。(妊婦：問3)

図27 これ以上子どもをほしいと思わない理由



2. 食に関する啓発

子どもを含めた食生活の急激な変化に伴って、朝食の欠食や家族との食事の時間の減少などの課題が伺えます。今後も乳幼児期から思春期まで発達段階に応じた「食に関する学習の機会や情報の提供」を進めていく必要があります。(就学前：問 69・70、小学生：問 53・54)

図 28 お子さんの食事について心配なこと

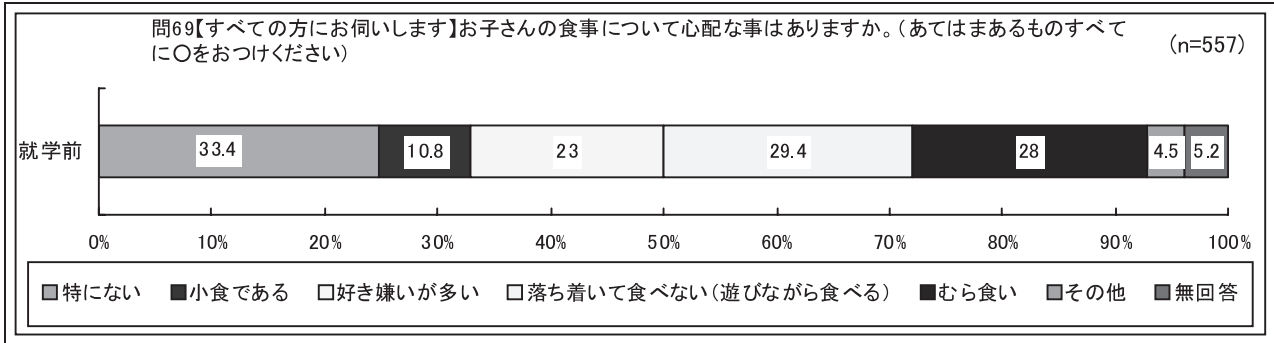


図 29 家族と食事をしているか

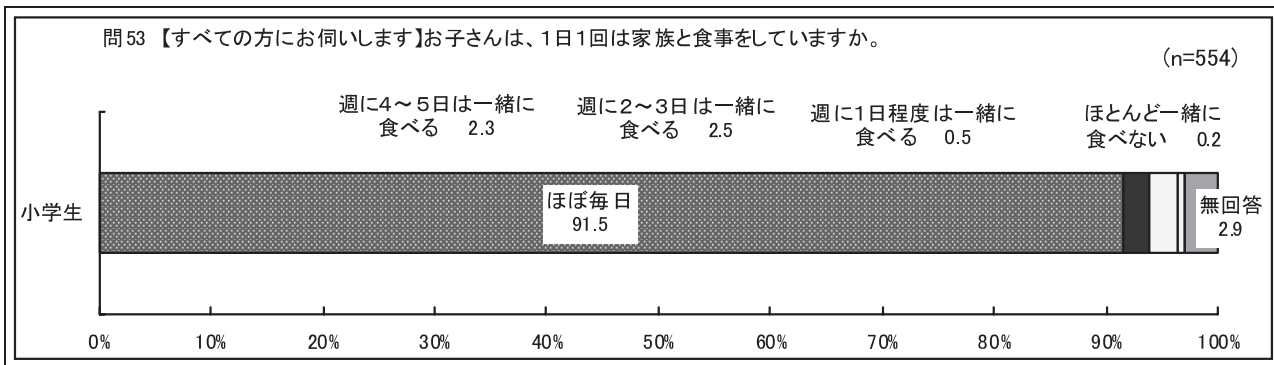
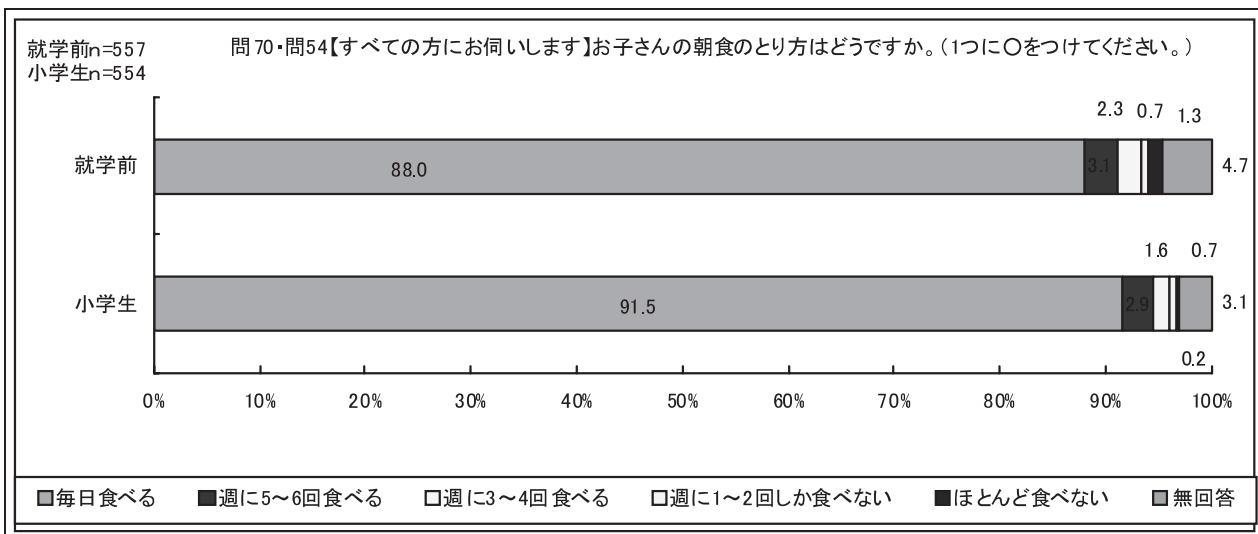


図 30 お子さんの朝食のとり方

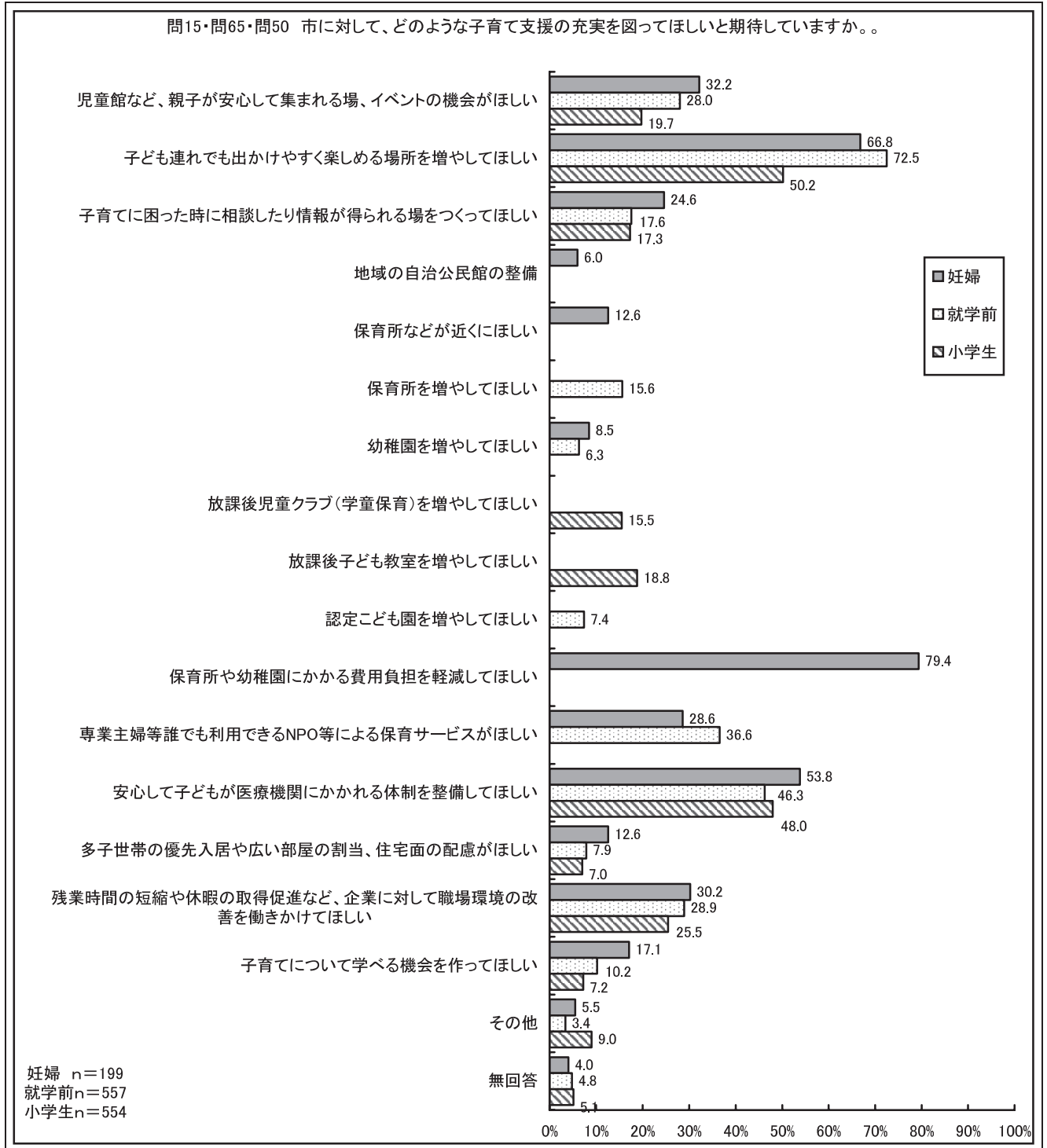


3. 小児医療体制

市への子育て支援に関する要望として、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が妊婦で53.8%、就学前が46.3%、小学生が48.0%と約半数を占めています。(妊婦：問15、就学前：問65、小学生：問50)

医療費助成なども含め、小児医療の充実が求められています。

図31 市への子育て支援に関する要望



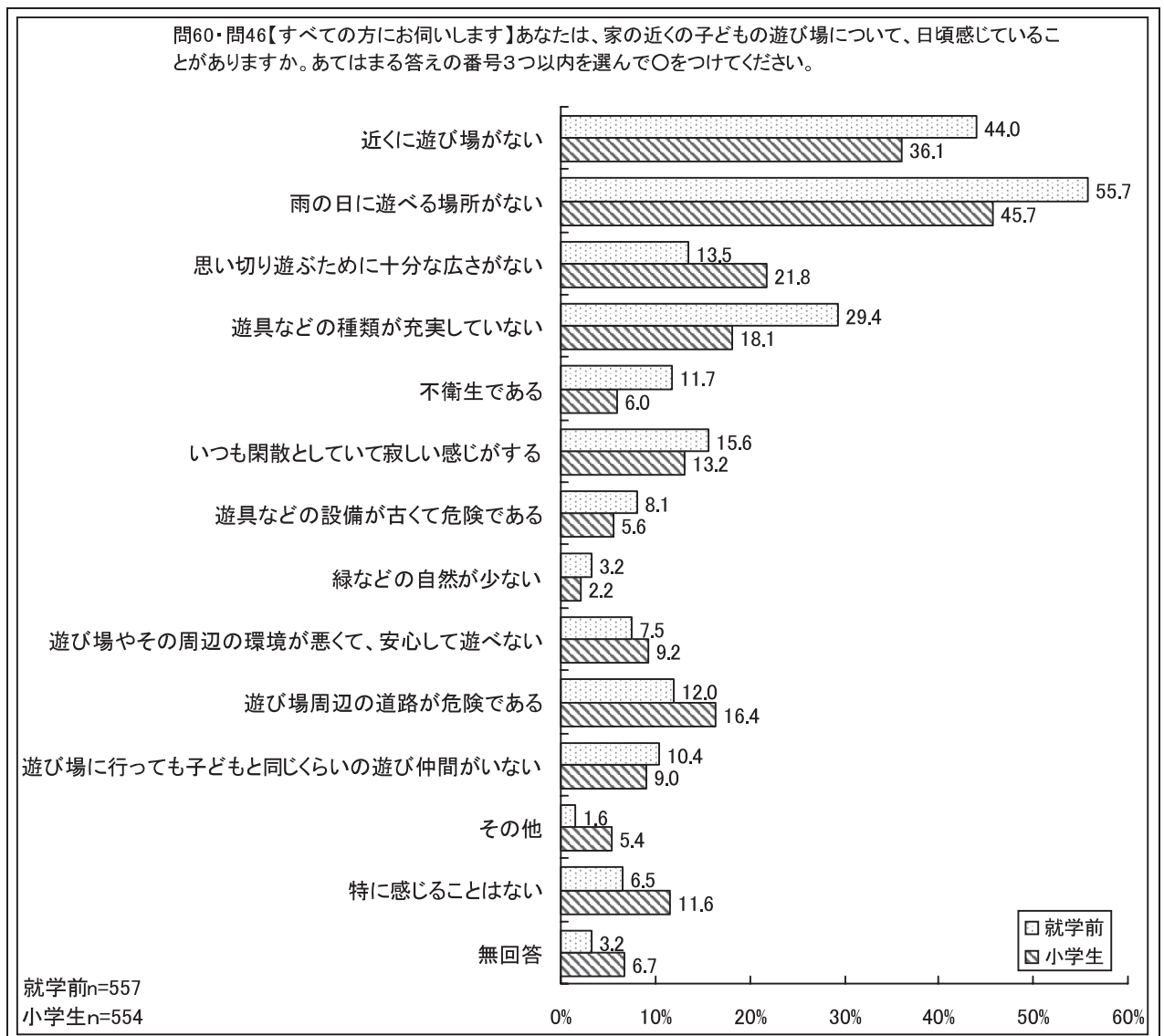
第3節 子育てを支援する生活環境

1. 安心して外出できる環境

子ども連れでも出かけやすく楽しめる場所や、親子が安心して集まれる場所が求められています。(就学前：問65、小学生：問50) ※図31市への子育て支援に関する要望参照

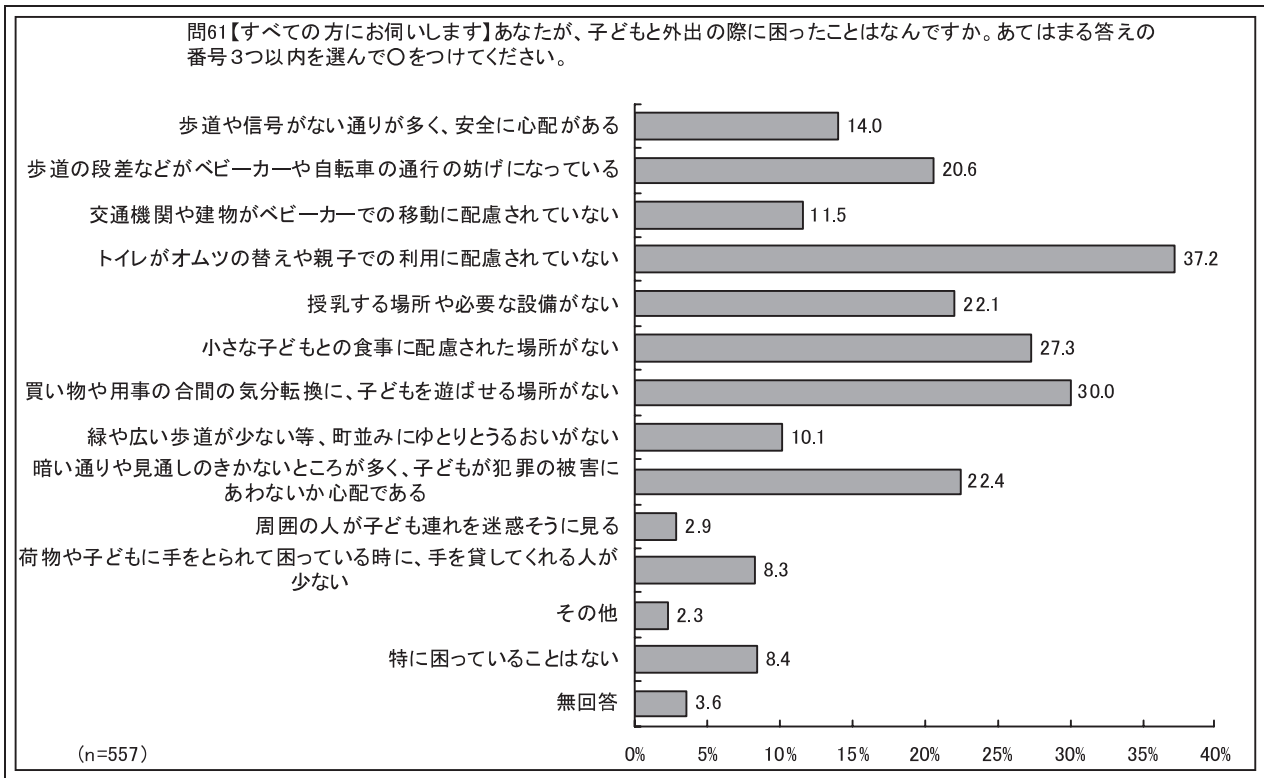
また、家の近くの子どもの遊び場について、日頃感じていることをみると「雨の日に遊べる場所がない」が就学前で55.7%、小学生で45.7%、次いで「近くに遊び場がない」が就学前で44.0%、小学生で36.1%であるなど、雨の日に遊べる場の提供や子どもが安心して遊べる施設整備が課題です。(就学前：問60、小学生：問46)

図32 家の近くの子どもの遊び場について、日頃感じていること



また、子どもと外出の際に困ったことをみると「トイレがオムツの替えや親子での利用に配慮されていない」「買い物や用事の合間の気分転換に、子どもを遊ばせる場所がない」「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である」「授乳する場所や必要な設備がない」「歩道の段差などがベビーカーや自転車の通行の妨げになっている」と6項目で2割以上の回答となっているなど、こうした施設等の改善も引続き進めていくことが必要です。(就学前：問61)

図33 子どもと外出の際に困ったこと

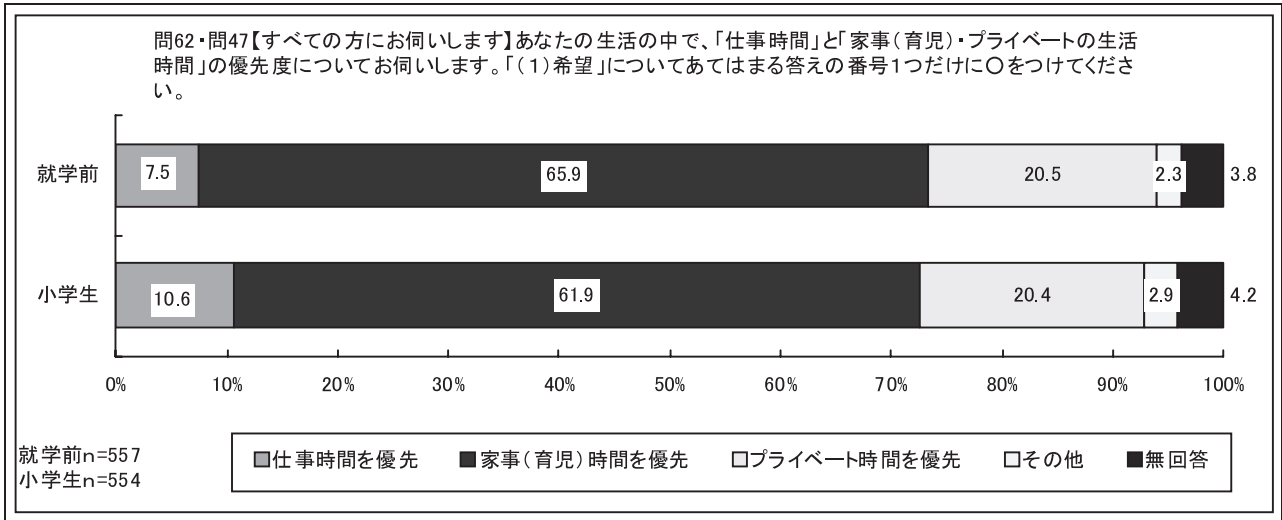


第4節 職業生活と家庭生活との両立

1. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度をみると、就学前も小学生も同じように希望と現実の開きが大きく、仕事時間を優先している現実があります。そのため、企業への協力を求めていくことが不可欠であることから、今後も職場環境の見直しを働きかけていく必要があります。(就学前：問 62、小学生：問 47)

図 34 「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度の希望

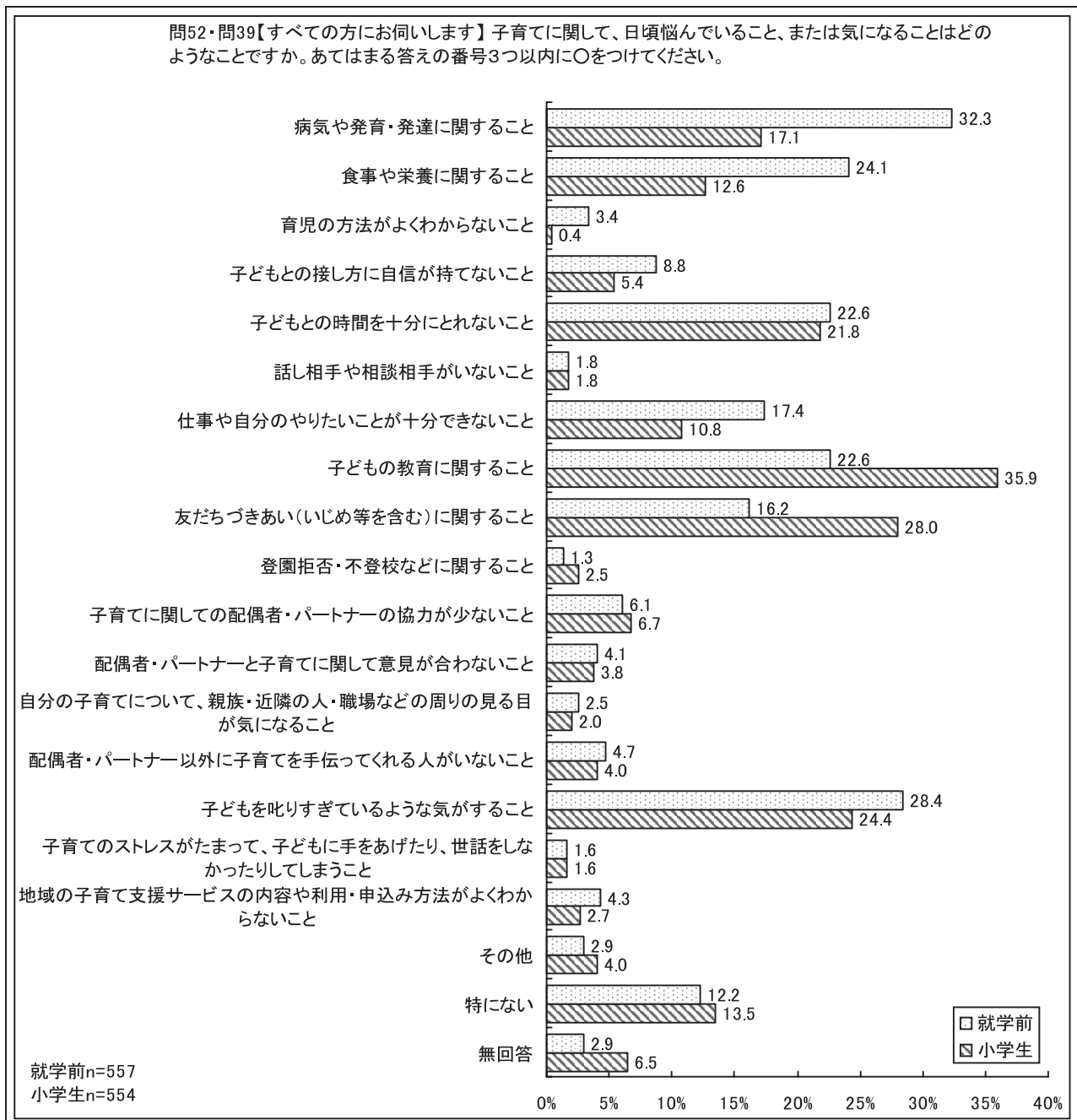


第5節 要保護児童への対応

1. 児童虐待

子育てに関して、日頃悩んでいること、または気になることでは「子どもを叱りすぎているような気がする」と就学前で28.4%、小学生で24.4%、「子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまうこと」が就学前で1.6%、小学生で1.6%と回答していることから、こうした家庭で虐待と思われる行為が発生しないよう対策を講じるとともに、そうした子どもの家庭の早期発見、早期援護が必要です。(就学前：問52、小学生：問39)

図35 子育てに関して、日頃悩んでいること、または気になること



2. ひとり親家庭の子育て

ひとり親家庭の状況をみると、就学前で 4.1%、小学生で 8.7%の世帯でそれぞれひとり親家庭であることから、ひとり親家庭になったことによる、生活機能低下の回復を援助したり、負担を軽減したりすることにより、家庭全体が円滑に運営されるよう支援し、子どもが健やかに育つ環境を整備していく必要があります。（就学前：問3、小学生：問3）

図 36 お子さんと同居・近居している家族

